

愛知県立起工業高等学校（昼間定時制）いじめ防止基本方針

I いじめ防止についての基本的な考え方

いじめは人権侵害であり、生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である。誰もが被害者にも加害者にもなりうる事実を踏まえ、教職員は、日頃からささいな兆候を見逃さないように努め、学校全体で組織的に指導する必要がある。学校は、生徒が教職員や他の生徒と信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場であることが大切である。生徒一人一人が大切にされているという実感を持ち、互いに認め・尊敬し合う関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組む。

II いじめ防止対策組織について

いじめのささいな兆候や懸念、生徒からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応するために、「いじめ・不登校対策委員会」を設置する。

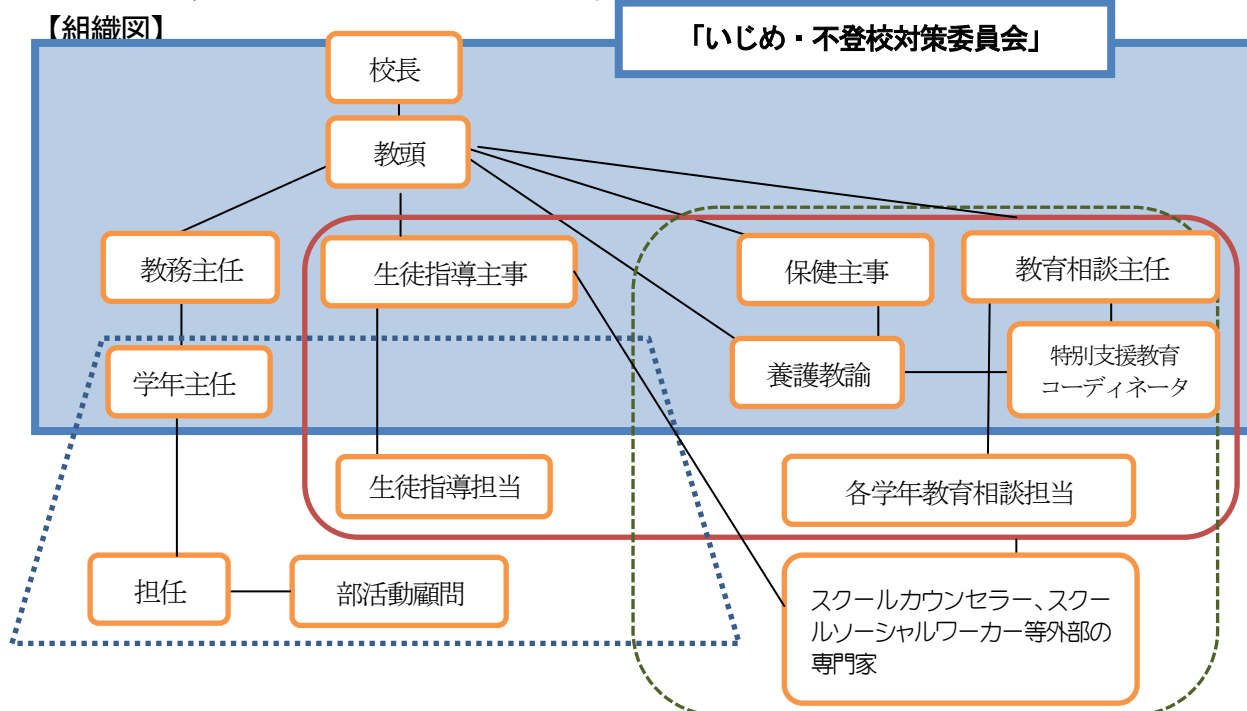
(1) 「いじめ・不登校対策委員会」について




ア 委員会のメンバー

校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、保健主事、教育相談主任、学年主任、特別支援コーディネータ、養護教諭
(必要に応じて、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等外部の専門家を加える。)

イ 小委員会の設置

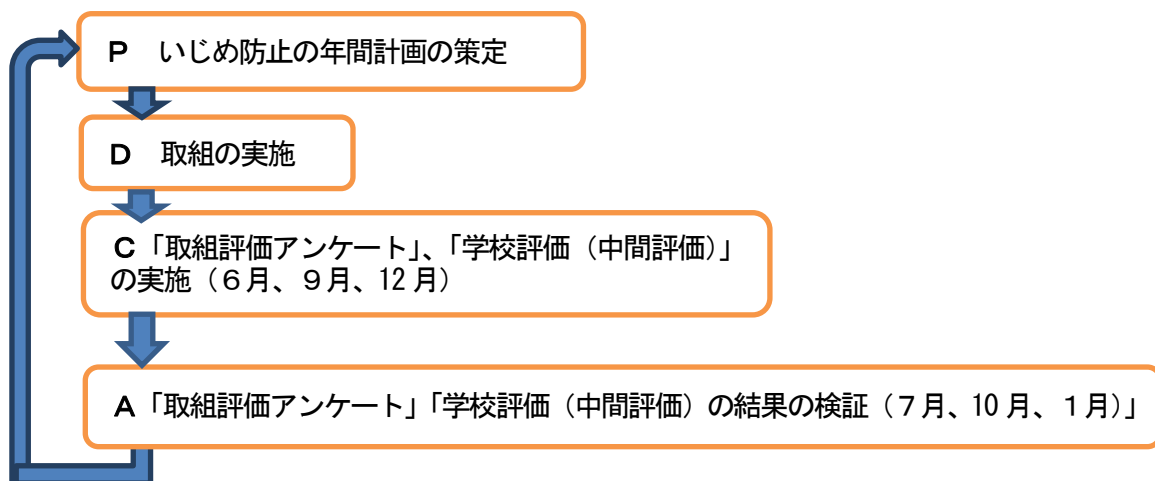
委員会が、事案に応じて、適切な教員等をメンバーとする指導・支援チームを決定し、実際の対応を行わせる。いじめの防止、早期発見、早期対応に当たっては、事案によって関係の深い教職員を追加したり、ネットいじめなどでは、インターネットに詳しい教員を加えたりするなど、適切なメンバーで対応できるよう柔軟にチームを組んで対応する。



※ 、、 は、指導・支援チームの例。事案によってメンバーを柔軟に変える。必要に応じて外部の専門家と連携をとる。

(2) 「いじめ・不登校対策委員会」の役割や機能等

ア 取組の検証（PDCAサイクル）



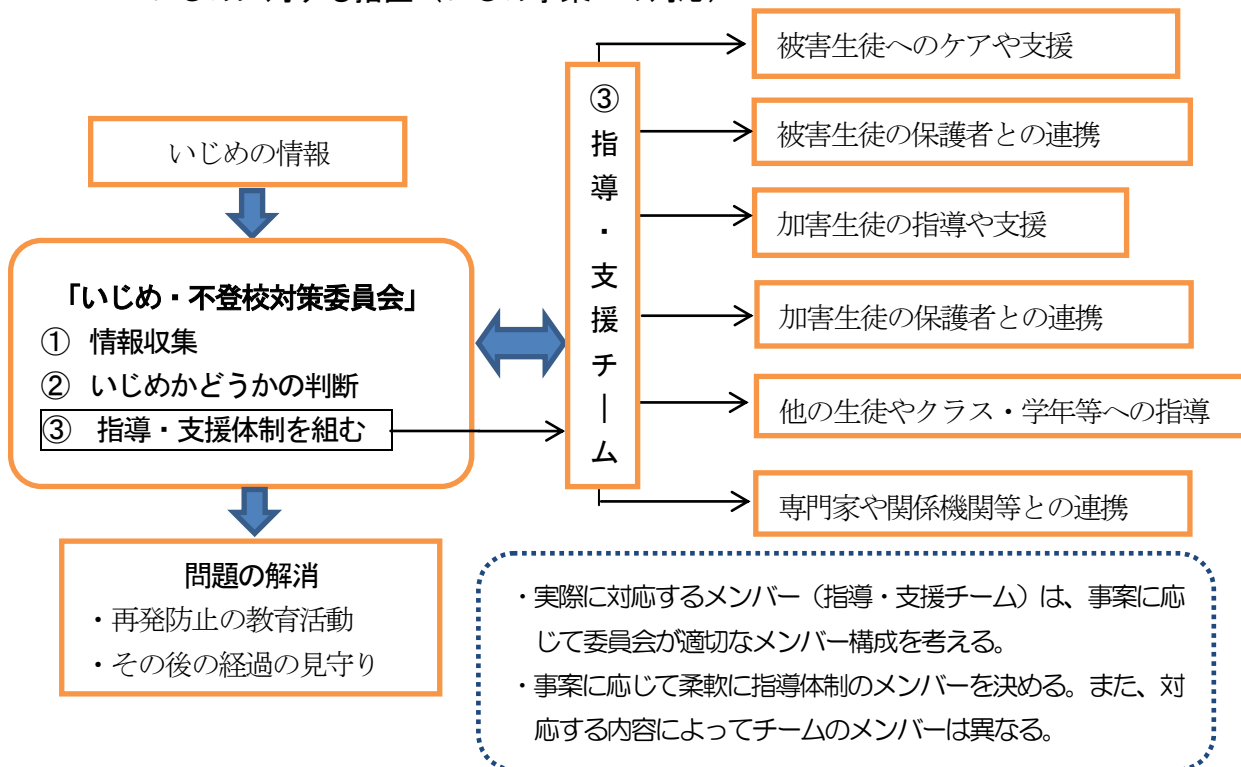
イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「いじめ防止基本方針」の周知と確認を行う。
- ・「いじめ・不登校対策委員会」で検討した内容を職員会議等で報告する。
- ・現職研修で、年2回「いじめ・不登校」をテーマとした講話やケーススタディを実施する。

ウ 生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取

「学校いじめ防止基本方針」及び「学校関係者評価」結果を、学校経営案及び学校のホームページに掲載する。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）



オ 重大事態への対応

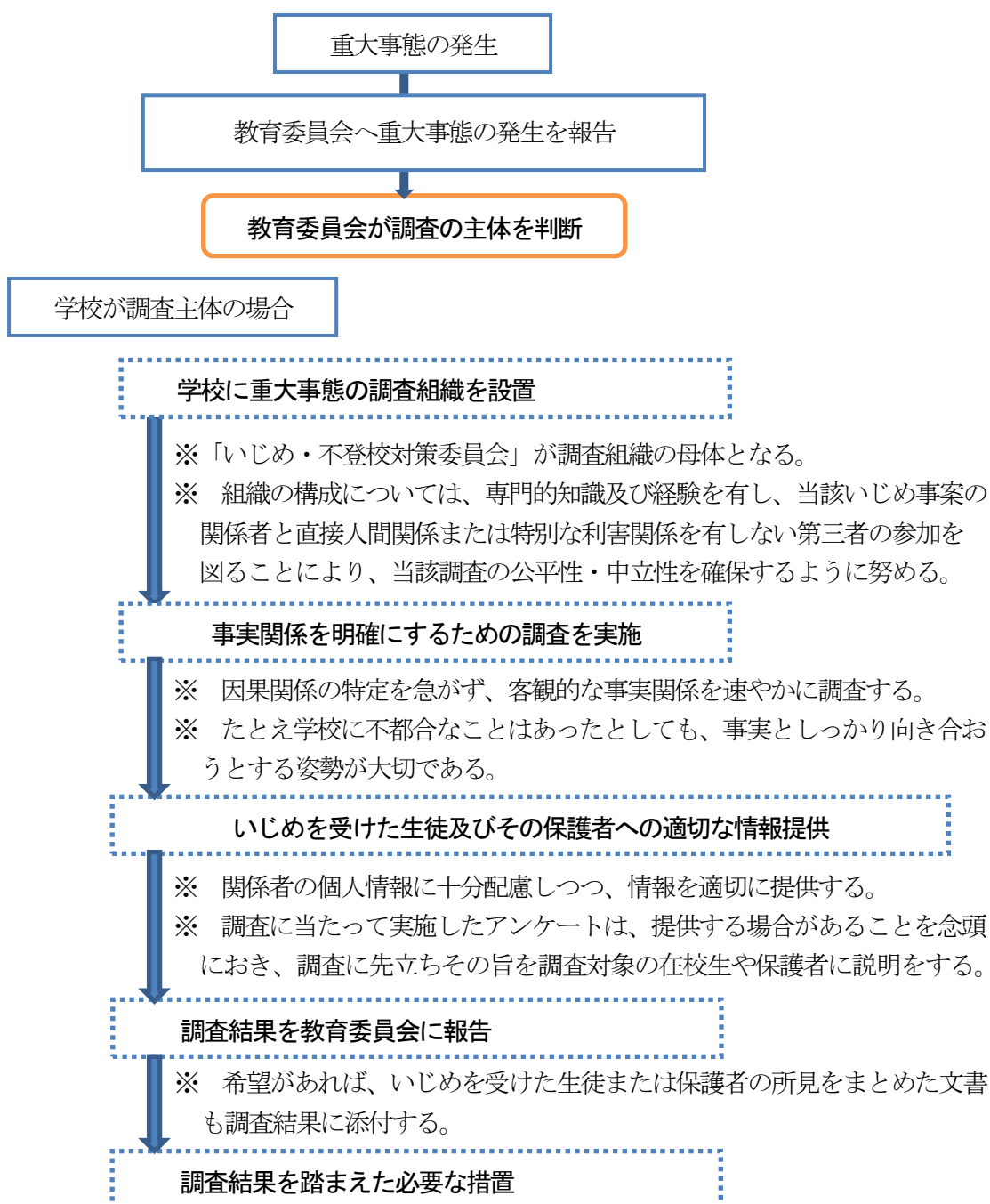
重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告し、文部科学省「重大事態対応フロー図（学校用）」に基づいて対応する。

学校が調査を実施する場合は、「いじめ・不登校対策委員会」が調査の母体となり、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。

【文部科学省「重大事態対応フロー図（学校用）」より

(注) 重大事態とは（「いじめ防止対策推進法」第28条）

- 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき
- 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間（年間30日を目安とする。）学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき



Ⅲ いじめの防止等に関する具体的な取組について

(1) いじめの未然防止の取組

- ア 現職研修を充実させ、全ての教職員がいじめに対する共通理解をもち、適切に対応できる力を養う。
- イ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図る。
- ウ 授業研究や教材研究を積極的に行い、分かりやすい授業づくりに努める。
- エ 保護者会や文化祭などの機会を通じて保護者へ学校開放を行う。
- オ 体罰はもとより教職員の言動がいじめを助長することのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。

(2) いじめの早期発見の取組

- ア 教職員は、生徒のささいな兆候から、いじめを積極的に認知するように努める。
- イ いじめを認知またはいじめの疑いがある場合は、速やかに「いじめ・不登校対策委員会」に報告し、組織的に対応する。
- ウ 定期的な「心のアンケート（いじめアンケート）」（年3回）の実施や教育相談の充実を図る。

(3) いじめに対する措置

- ア いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校対策委員会」で組織的に対応する。
- イ 被害生徒を守り通すという姿勢で対応する。
- ウ 加害生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- エ 教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラーや警察署等、専門家や関係機関等との連携のもとで取り組む。
- オ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。
- カ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。また、日頃から情報モラル教育の充実を図る。

(取組の年間計画)

	未然防止の取組	早期発見の取組	「いじめ・不登校対策委員会」の動き	保護者・地域との連携
4月	○高校生活での諸注意【新入生】(生) ○相談室やSCの周知【全学年】(相) ○個人面談【全学年】(学) ○情報モラル教育(科)	○個人面談【全学年】(学) ○教育相談便り発行(相) ○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○いじめ防止基本方針を全職員へ周知と確認 ○現職教育	○相談室やSCの周知
5月	○人間関係づくり【1年総合学習】(教) ○新入生歓迎行事(生)	○「心のアンケート(いじめアンケート)」の実施【全学年】(相)(保)(生) ○教育相談便り発行(相) ○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○現職教育	○PTA総会(学校開放)
6月	○保護者会での授業公開【全学年】(教) ○人間関係づくり【1年総合学習】(教)	○保護者会【全学年】(学) ○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○全教職員対象の「取組評価アンケート」の実施	○保護者会(学校開放)
7月	○人間関係づくり【1年総合学習】(教) ○夏季休業前の諸注意(生)	○教育相談便り発行(相) ○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○中間評価→検証 ○現職教育	
8月				
9月	○全体集会での諸注意(生) ○人間関係づくり【1年総合学習】(教)	○「心のアンケート(いじめアンケート)」の実施【全学年】(相)(保)(生) ○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○全教職員対象の「取組評価アンケート」の実施 ○現職教育	
10月	○学校生活調査(保) ○人間関係づくり【1年総合学習】(教)	○教育相談便り発行(相) ○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○現職研修 ○中間評価→検証	○文化祭(学校開放)
11月	○人権講話【全学年】(生) ○個人面談【全学年】(学) ○人間関係づくり【1年総合学習】(教)	○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○現職教育	
12月	○保護者会での授業公開【全学年】(教) ○冬季休業前の諸注意(生) ○人間関係づくり【1年総合学習】(教)	○保護者会【全学年】(学) ○「心のアンケート(いじめアンケート)」の実施【全学年】(相)(保)(生) ○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○全教職員対象の「取組評価アンケート」の実施→検証	○保護者会(学校開放)
1月	○全体集会での諸注意(生)	○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○現職教育 ○中間評価→検証	
2月	○全体集会での諸注意(生)	○教育相談便り発行(相) ○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)		
3月	○春季休業前の諸注意(生)	○教育相談連絡会(職) ○健康観察(保)	○学校関係者評価の結果を検証し、「いじめ防止基本方針」の見直し	○学校関係者評価委員会

⑧教…教務部

⑧生…生徒指導部

⑧保…保健厚生部

⑧相…教育相談部

⑧学…学年会

⑧科…教科会

⑧職…職員会議

	学校の方針	学校としての取組	保護者・地域との連携
未然防止	<p>ア 現職研修を充実し、全教職員がいじめに対する共通理解をもち、適切に対応できる力を養う</p> <p>イ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図る</p> <p>ウ 授業研究や教材研究を積極的に行い、授業改善を進め、分かりやすい授業づくりに努める</p> <p>エ 体罰はもとより教職員の言動がいじめを助長することのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う</p>	<p>○「学校生活アンケート（いじめアンケート）」の実施（年3回） 【生徒指導部・保健部】</p> <p>○個人面談の実施【各学年会】</p> <p>○1年総合学習の時間に「人間関係作り」を目的とした授業の実施【教務部・学年会】</p> <p>○授業研究や教材研究を積極的におこない、わかる授業に努める。 【教務部・教科会】</p> <p>○人権講話の実施【生徒指導部】</p> <p>○教科による情報モラル教育の実施【生徒指導部・教務部】</p>	<p>○保護者会（年2回）や学校祭（10月）などに保護者見学の実施</p> <p>○学校評議員への学校行事・授業の公開</p>
早期発見	<p>ア 教職員は、生徒のささいな兆候から、いじめを積極的に認知するように努める</p> <p>イ いじめを認知またはいじめの疑いがある場合は、速やかに「いじめ・不登校対策委員会」に報告をし、組織的に対応する</p> <p>ウ 「学校生活アンケート（いじめアンケート）」（年3回）の実施や教育相談の充実を図る</p>	<p>○相談室やSCの周知</p> <p>○「相談室だより」の発行…年5回【教育相談部】</p> <p>○「学校生活アンケート（いじめアンケート）」の実施（年3回） 【生徒指導部・学年会】</p> <p>○個人面談の実施【各学年会】</p>	<p>○保護者会（年2回）の実施</p>
いじめに対する措置	<p>ア いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校対策委員会」で組織的に対応する</p> <p>イ 被害生徒を守り通すという姿勢で対応する</p> <p>ウ 加害生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う</p> <p>エ 教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラーや警察署等、専門家や関係機関等との連携のもとで取り組む</p> <p>オ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見逃ごさない、生み出さない集団づくりを行う</p> <p>カ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。また、日頃から情報モラル教育の充実を図る</p>	<p>○いじめ事案に対して組織的に対応（Ⅱの（2）エ「いじめに対する措置（いじめ事案への対応）」参照）【「いじめ・不登校対策委員会」・生徒指導部】</p>	<p>○事案に応じて、専門家や関係機関に相談</p>
点検・検証・見直し		<p>○全教職員対象の「取組評価アンケート」の実施（6月、12月） →その後、「いじめ・不登校対策</p>	<p>○学校関係者評価委員会（3月実施）で「自己評価」の</p>

		<p>委員会」を開催し、アンケート結果や取組の実施状況、進捗状況を検証する。→職員会議で報告をする。</p> <p>○学校評価の評価項目とし、「中間評価」（9月）及び「自己評価」（2月）を行い、「委員会」でその結果を検証する。</p>	<p>評価を行う。</p>
--	--	---	---------------